

如

月、梅見月、雪消月、初花月など
と呼ばれる2月。一年で最も寒い

時期ながら、日脚は少しずつ伸びて、明るさを実感する頃でもある。暦の上では4日頃に立春を迎え、梅の花などの開花も伝えられると気分はもう春。春一番といえは立春を過ぎて初めて吹く強く激しい南風のことだが、道端に花を見つけた時や春野菜を味わった時も「春一番」という感じがする。四方を海に囲まれた日本では、春になると水が温むことで水蒸気が漂い、どんな色も薄いグレーを一色引いたように見えてくる。そんな季節には淡く優しい色が風景になじみ、身にもとう人も美しく見せてくれるようだ。

400年の伝統を受け継ぐ絞りの町有松で、柔らかなウールに絞りの技法を施したショールを見つけた。心地よい肌触りのウールは、薄手でたつぷりと空気を含み軽やかに体を包んでくれる。有松・鳴海絞といえは藍染めの浴衣と思いこんでいたが、有松染色 久野染工場を訪れてそのイメージは音を立てて崩れた。4代目の久野剛資さんは「まず、手仕事で作り出しているのが絞り、機械で行なっているのがブリーツだということをご理解ください」と語る。絞りとは鹿子絞りや板絞りなどのことで、ブリーツも絞りの技法の範疇とは知らなかった。しかも手仕事として作られているとは。手仕事だ

から薬品処理などではなく、温度と圧力だけで作られる。作品を見せただけと驚くほどのバリエーションだ。

絞りは平面の柄から立体感のある素材として注目され続けている。伝統的な着物や小物からイッセイミヤケ、コシノヒロコなどのアパレル、舞台衣装、インテリア、アートまでと新しい世界を繰り広げる。

有松は旧東海道に沿う美しい町。軒を連ねる古い町家では今も絞りを家業として受け継ぎつつ時代の先端を拓いている。これこそが伝統の底力なのだろう。

さあ、春へと背筋を伸ばして踏み出そうか、絞りのショールに包まれて。

暮らし歳時記 ◆連載4

春一番

文＝中島史子
撮影＝竹内けい子

有松・鳴海絞

有松染色 久野染工場
しほりせんじよく くのせんこうじょう
愛知県名古屋市緑区鳴海町境松4-2
ショール（ウール100%、70×170cm）9000円
取り寄せ可
☎052・621・1041